**前頭側頭型認知症について**

1．前頭側頭型認知症とは

脳の神経細胞に異常な物質がたまり，脳の前頭葉，側頭葉が痩せるために，性格の変化や社会的行動の障害をきたす認知症疾患です．記憶の障害や日常生活動作の障害は比較的軽度です．

2．前頭側頭型認知症の中心となる症状

１）早い時期からマナー，礼儀正しさ，道徳観念がなくなり，社会ルールを無視する行 動がみられます．

２）早い時期から自発的に物事を行う意欲が低下し，消極的で不活発になったり，逆に 落ち着きなく，活動が極端すぎるほど多くなります．

３）早い時期から物事に対し無関心であったり情緒的な優しさ，他人への思いやりなど が乏しくなります．周りへの気配りがない気のおもむくままの“わが道を行く行動” をとります．

４）早い時期から病気としての認識がありません．

５）１）～４）の症状が，必ず見られ，いつの間にか現れ，ゆっくり進行します．

３．前頭側頭型認知症のその他の症状

１）同じ行動の繰り返しがみられます．

a) 時刻表的生活：同じ時間に同じ道のりで同じところに行って同じように同じ時 間に帰ってくる，といった行動を天候にかかわらず行うことがあります．

b) 同じメニューの食事ばかり作ったり，同じ弁当ばかり食したりします．

２）食行動の変化

a) 食欲が極端に増し，大食漢になることもあります．

b) 嗜好の変化として甘いものを毎日多量に食べたりします．

c) 十分にかまずに飲み込んでしまい，食事のスピードが極端に早くなったりしま す．

d) いろいろな物を次々に口に詰め込んだりすることがあります．

４．前頭側頭型認知症の治療

1. 薬物療法

前頭側頭型認知症の中心となる症状を根本的に治療する薬は今のところありませ ん．症状を和らげる目的で，薬物を使用することが薬物治療の中心です．

1. 非薬物療法

前頭側頭型認知症の患者さんは，独特な行動の障害がみられます．しかし比較的記 憶障害が軽度であることもあり，行動上の危険性や社会性がないことを見届け，そ の行動をそのまま受け入れることで対処できる場合があります．

また，同じ行動を繰り返すという行動の障害を利用して，デイサービスに毎日通う ことを可能にしたり，意味のある作業を行ってもらったりすることもできるような 方法もとります．

5． 前頭側頭型認知症の経過

前頭側頭型認知症はいつの間にか発症し，徐々に進行していきます．症状の進行にともなって，日常生活にも支障をきたすようになりますが，進行のスピードは人によってかなりばらつきがあります．症状が進行しますと，

1. 寝たきりとなり，口からの食事摂取，排尿排便を自身で行うことが難しくなります．
2. 寝たきりの状態になりますと，肺炎や心不全などにより生命にかかわることがあります．

参考資料

１）日本認知症学会，編．認知症テキストブック

２）　日本臨牀69巻増刊号10．認知症学(下)

　　　　　　　年　　　月　　　日

説明者　　　　　　 氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

説明を受けた方　 氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印